

公共下水道浸水対策事業住民説明会（報告）

説明会概要

期 日

第1回 令和4年11月24日（木）19時00分から

第2回 令和4年11月27日（日）14時00分から

会 場

万田小学校 体育館

対 象

浸水シミュレーション対象地区（市北西部 330.4ha）に居住している市民

説明会参加者

32名（24世帯）

●日別

開催日	参加者
第1回 令和4年11月24日（木）	14名（11世帯）
第2回 令和4年11月27日（日）	18名（13世帯）

●地区別

地区	行政区	参加者
荒尾地区	宮内出目東	1
	大平町1丁目	1
万田地区	日の出町	2
	境崎東	10
	境崎西	1
	万田西	10
	境崎中	1
	西原町2丁目	1
	大正町1丁目	4
	大正町2丁目	1
合計		32

説明会で発言された主な意見と回答

公共下水道浸水対策事業の内容について

- Q 大口径バイパス管について土砂、雨水と一緒に流れてくる。能力が不足することはないのか。
- A 能力が不足することはないように維持管理を行います。
- Q 計画が長期で、市役所の人も入れ代わると思うが、計画どおり進むのか。
- A 問題ありません。公共下水道の事業計画に基づき計画をし、実施していきます。
- Q 荒尾市役所全体として説明会をやるべきではないか。
- A 今回、公共下水道に係る浸水対策ということで、企業局だけの説明会としたことは申し訳ないと思っています。
- Q 大口径バイパス管の深さはどれくらいか。
- A 設計をしてみないと詳細は分かりませんが、深さは10mくらいかと思います。
- Q 予算が77億と大きいですが、本当にそれに見合った結果が得られるのか。
- A 問題ありません。
- Q 将来、この計画で対応しきれないほどの大雨が降った場合、どうするのか。
- A 今回の大口径バイパス管や雨水ポンプ場の新設といったハード対策だけでは限界がありますので、事前の避難などのソフト対策と併せて対策を行っていきます。
- Q 令和2年7月当時、大牟田市の三川ポンプ場が浸水してしまったが、新設する北新地雨水ポンプ場は絶対に浸水しない高さで整備するのか。
- A 新設する北新地雨水ポンプ場について、浸水しない高さで整備します。また、既設の雨水ポンプ場についても、耐水化の工事を計画しています。
- Q 大牟田市が排水ポンプ車の導入をしているが、荒尾市で導入する予定はないのか。
- A 排水ポンプ車について、荒尾市の地域特性として、浸水が頻発している地区の近くには排水先となる場所がなく、有明海へ排水するしかないため、排水ポンプ車の導入ができるか分かりませんが、検討していきます。
- Q 荒尾駅裏の境崎遊水池や周辺の水路など、容量を増やしたりすることはできないのか。下流側の対策が先となり、浸水軽減まで長い期間を要することも理解できるが、それまで少しでも浸水を少なくするための対策を何か検討してほしい。
- A 荒尾駅裏の境崎遊水池周辺の浸水要因は境崎主要幹線（水路）が滞水することにより流れ先が無くなっていることです。下流側の大口径バイパス管及び北新地雨水ポンプ場の整備が完了すれば大きな浸水軽減効果がありますが、それまでも何か効果的な対策がないか、継続して検討していきたいと考えています。
- Q 境崎ポンプ設置について、どこに設置するのか。設置することで、これだけで周辺の浸水がなくなるのか。
- A 国道208号線沿いの既設水路に設置する案としています。この地区についても、浸水要

因が境崎主要幹線（水路）の滞水による逆流であるため、効果発現まで長期間となります。ただし、今回の計画はあくまでも現時点での対策案です。今後の設計で変更となる可能性もあります。また、対策工事をした結果を検証し新たな対策の検討も行っていきます。

Q 将来、西原雨水ポンプ場廃止となっているが、ポンプ場の運転により道路冠水が軽減することがある。残してもらった方が周辺住民は安心すると思う。

A 現在も西原雨水ポンプ場の運転については早期の運転を心掛けているところですが、老朽化しており、現地建替え等も比較検討したうえで、将来的には大口径バイパス管に繋ぎこむ計画としております。3メートルという大きさも西原町地区や境崎地区などの流入を計算したうえでの大きさになりますので、ご安心いただければと思います。

道路・側溝・水路等の維持管理について

Q 境崎遊水池の土砂が溜まって臭い。ちゃんと管理をやってほしい。

A 梅雨前には毎年土砂の撤去を行っています。

Q 街路樹の葉が落ちて側溝に溜まっていて、そのままになっている。

A 土木課で街路樹の剪定もやっています。側溝も、日々の道路パトロールで清掃が必要と判断した箇所については順次行っています。

Q 万田小周辺の水路の土砂上げ箇所と頻度を教えてほしい。

A 万田小南側のグレーチングの水路からロックタウン裏にかけて、土砂の堆積があるか調査し、梅雨前までに年1回、順次土砂上げを行っています。道路パトロールを行い、泥上げなどの清掃が必要な箇所は清掃しています。道路パトロールでもすべてを把握できるわけではありませんが、市民の皆様からのご連絡においても随時対応を行っています。

Q 側溝などに土砂が溜まっているのを発見したときはどこに連絡すれば良いか。

A 道路側溝については土木課が維持管理をしています。お手数ですが、土木課にご連絡いただきましたら、調査し土砂上げが必要なら対応します。

Q ガード下の浸水箇所について、大雨で道路冠水するときは、毎回車輛が侵入して動かなくなっている。大雨時の進入禁止の対策をしてほしい。

A 関係機関と調整し検討します。（以下、説明会後の内容）西原町のガード下は、雨水を歩道の地下ピット内にあるポンプで、道路西側の水路へ強制排水しています。令和5年1月頃に流入口の増設工事を行い、冠水対策を行います。

避難・ハザードマップ（ソフト対策）等について

Q 大雨が予想されるとき万田小か旧二小に事前に車を移動させたい。既に緊急時に置いている方もいるが、駐車スペースなども含め住民へ周知してほしい。

A 庁内で協議し住民の方へ周知できるよう対応します。（以下、説明会後の内容）庁内協議の結果、緊急時に旧二小体育館前に車輛を駐車できるようにしました。駐車スペース等については後日周知します。

Q 現在荒尾市ホームページ上に公表してある、令和2年7月豪雨の被害状況の図について、青塗り箇所が実際の浸水箇所と一致していない。各地域に聞き取りをした方が良いのではないか。

A この図は当時の罹災証明書に基づき表示しています。今回の浸水シミュレーションの周知方法については庁内で協議します。

Q 防災無線について、降雨時、家の中にいるとまったく聞こえない。

A 庁内関係部署に共有させていただき、対応についてはご報告いたします。(以下、説明会後の内容) 戸別受信機の貸出しを行っています。希望される場合は、防災安全課にご連絡ください。

Q ハザードマップについて、市民にも配布されているが、浸水の深さが50cmの次が3mとなっている。もっと細かい深さの表示をできないのか。

A ハザードマップはあくまで避難の目安となるものです。今回の令和2年7月豪雨を再現したシミュレーション図の公表の仕方は検討します。

Q 「〇〇年豪雨の最高水位」などの表示を街中の電柱などにできないか。

A 庁内関係部署と調整します。

その他

Q 荒尾駅裏のゲートの施設は誰が管理しているのか。

A 企業局で維持管理をしています。水路を流れてきた草や木などのごみが流れていかなないようにするための施設です。委託している維持管理業者と連携し、雨が降る前後には見回りをし、ごみなどを除去しています。

※ 特定の個人的なご意見等に関することは個別にてご対応させていただきました。